

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部

令和五年一月度 入賞句一覧

投句数 五百二十四句

特選



奥の細道
むすびの地
大垣

度会 さち子 選

初鴉光蹴りつつ大空へ

大垣市 坪井 克枝

日頃はどこかうつとうしい鴉も、その声さえ元旦にはなぜか神々しい。初日の出をうけて飛び立つ鴉。光を蹴つてという措辞に納得。あかあかとした初空と黒い鴉の対比。色彩的にもよく見えてくる。

冬帝と待つ終電の缶コーヒー

兵庫県豊岡市 辻井 一路

ホームに上がるとそこは風に吹きさらされる。冷える体を少しでも温めようと熱い缶コーヒーを買う。冬帝に向かうのではなく、共に待つのが面白い。足踏みもしながら襟に首をすぼめ、終電を待つ姿がみえる。

風音の砂紋となりし冬の浜

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

どこの砂浜にも波跡が残る。その波紋を踏み浜に立つ。はるかな海鳴り、潮騒を聴きながら。風が波を呼ぶ。だが、作者は、その砂紋はその風音がつくるのだと。風音はどんな文様を描いているのか。ここに詩が生まれる。詩は海からやってくる。

秀逸

ほどほどの幸せの中障子貼る

大垣市 平野 きぬよ

朝市に膝抱きて売る冬林檎

埼玉県川口市 吉永 寿美子

初空へ百羽の羽音鳩すずめ

大垣市 尾関 逸子

街騒にひとりの師走もて余し

大垣市 岡田 あや子

霊峰の初冠雪やドローン飛ぶ

大垣市 香田 末代

菰巻の男結びや大蘇鉄

福井県敦賀市 山田 美千代

落ち葉して姿勢正しき樹なりけり

愛知県名古屋市 岩田 遊泉

元気良く動く胎児のクリスマス

三重県桑名市 小林 寛久

大根にダリの口髭しかと見ゆ

養老郡養老町 松永 智志

信長の城頂に山眠る

岐阜市 辻 雅宏

入選

跳びはねて傘に踊れり霰かな

大垣市

安田 むつ子

十二月八日テレビは戦報じをり

大垣市

北浦 典子

短日や手話の飛び交ふ分かれ道

東京都新宿区

花澤 ちいこ

返信は欠席故郷もう雪か

東京都世田谷区

関戸 信治

寒中の水ひと口で身をたたせ

愛知県名古屋市

舘野 茂子

鷲降りて来て夕暮れる枯野原

大垣市

宇津 香代子

息白し衿立て並ぶ三番線

大垣市

中山 あや子

初あかり舫いの綱のきしむ音

大垣市

白井 秀子

能面展魂の漂ふ冬灯

大垣市

宇佐美 昭子

急かさるも老いの歩幅や歳の果

大垣市

早筈 千恵子

お元日うさぎ当番みな集ふ

養老郡養老町

田中 紫香

己が影土に睦みて鍬始

岐阜市

廣瀬 あや子

薄闇や夜行列車の冴ゆる音

大垣市

立川 昌子

人日や一字違ひの名の誤配

岐阜市

堀江 美州

短日やまたもキセルを老庭師

安八郡神戸町

高橋 泰

ピノキオの鼻先までも雪焼す

三重県鈴鹿市

松井 ドラム缶王

傷のある熟柿は甘し人優し

大垣市

すみのサクラ

初雪を屋根に下りの地域バス

滋賀県大津市

近江 董花

弦を弾く指やはらかに冬の虹

海津市

横井 美圭

報恩講出合いふれ合い村絆

大垣市

大角 信華

送者吟

ひと送る六日の橋に月まどか

さち子



一般の部